

令和3年度事業報告

障害者支援施設 四ツ葉園

はじめに

令和3年4月10日、四ツ葉園において新型コロナウイルス感染者が確認され、その後クラスターが発生し、6月6日までの約2か月間、施設全体が療養生活を余儀なくされた。当時は、クラスターが全国で発生し始め、新型コロナウイルス感染症について神経質になっていた時期であったが、職員の結束と関係機関との連携で難局を乗り越えることができた。この経験を貴重な財産として今後の運営に活かしたい。

(1) 利用状況

この2年間は満床状態が続いている。このうち女子については、2名の方が介護施設に移行されたが、10才台の方が2名、20才台の方が1名入所したため、平均年齢が5歳程低くなった。また、障害支援区分も徐々に高くなってきており、支援区分6の重度者は、平成29年度の12名から18名に増加してきている。

こうしたことから、施設収入は安定しているものの、新規入所や短期入所の希望については、十分には答えられない状態となっている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

利用者数

3月末日現在

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
男	50	51	51	53	54
女	27	25	26	27	28
計	77	76	77	80	82

平均年齢

3月末日現在

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
男	42.0	41.4	41.5	42.6	42.9
女	53.0	53.0	54.3	54.6	50.2
全体	45.7	45.3	45.9	46.7	45.4

平均障害支援区分

3月末日現在

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
男	4.62	4.76	4.80	4.81	5.00
女	4.33	4.12	4.30	4.52	4.50
全体	4.52	4.55	4.64	4.71	4.83

短期入所支援（定員 6 名）

コロナ禍により実施期間は 4/1～4/9、11/1～12/31 の 70 日間となった。（前年比）

	利用者数	利用延べ日数
短期入所	12 名（▲10 名）	68 日（▲304 日）
日中一時支援	4 名（▲9 名）	16 日（▲96 日）

（2）利用者支援について

令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策として、各種イベントや園外活動を自粛してきたが、コロナ感染対策マニュアルを作成し、令和 3 年度は、感染症対策を講じながら、少しずつ年内行事を開始した。年齢や、生活習慣、嗜好に合わせた生活支援に努め、行事食にはセレクトメニューを取り入れるなど個別支援の充実に努めた。

令和 3 年度の主な行事は次のとおりである。

月	行 事	備 考
4	お花見	縮小実施
6	親子会食	中止
8	七夕の会	縮小実施
	3 施設交流会	中止
	納涼祭	縮小実施
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	園祭	縮小実施
	UNIQLO 出張販売	
11	さいとう衣料店出張販売	
12	もちつき	縮小実施
	期末の集い	
	UNIQLO 出張販売	
1	新年を祝う会	
2	節分の会	
3	ひなまつりの会	
	UNIQLO 出張販売	
	中高生ボランティアスクール	ZOOM交流

(3)生活環境の整備について

毎月環境美化の日を設け、室内外や車椅子を点検し課題発見に努め、安心・安全な環境整備に努めた。また、除雪車の購入により、豪雪の中でも周囲の避難確保がスムーズに行えた。

環境整備と、支援体制見直しにより、事故報告件数が前年度に比べ22件減少し、ひやりはっと報告も73件減少した。

(4)人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援を振り返り、人権擁護に努めた。また、令和4年度から開始される身体拘束廃止検討委員会への準備をすすめた。

(5)職員の資質向上

外部研修は、職歴に合わせた研修（介護初任者、中堅職員、チームリーダー）、音楽療法等利用者支援の幅が広がるもの、権利擁護研修(虐待防止、意思決定支援)に参加した。また、内部研修では、全体職員会議や課内会議で、研修報告などを行った。

(6)非常災害対策等について

初めての夜間想定避難訓練を実施し、上市消防署職員とともに課題を確認し対応した。

(7)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

令和3年4月にクラスターが発生したことの検証を踏まえ、改めて、検温、手指消毒、マスク着用、面会制限(R3年12月よりオンラインを活用した面会を導入)、帰省期間の調整等、基本的な感染対策を徹底した。また、必要に応じて、園にて抗原検査を行った。

(8)実習生、ボランティアの受入れについて

行事のボランティアの受け入れはなかったが、学生ボランティアを1名5日間受入れ、福祉を学び体験する場を提供した。実習は指定校からの実習生を3名のべ21日間受け入れた。

(9)地域との関係づくりについて

コロナ禍により地域交流が難しかったが「つながる kamiichi プロジェクト」では利用者と上市高校生との Zoom 交流や共同制作もあり、新しい生活様式での交流方法を体験した。

上市交通安全協会への手作りマスク寄贈や、上市ローターリークラブからの記念植樹に利用者も参加し交流を深めた。

令和3年度事業報告

地域生活相談室

はじめに

地域で暮らしている障害者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行った。コロナ禍で感染状況に応じてオンラインや電話連絡等の対応をとらざるを得ないこともあったが、基本的には対面で表情等を読み取りながらの支援を行っていきたいと考えている。

また、精神的負担感を感じやすい業務であることも起因して、令和3年度は退職、異動が重なり担当相談員の変更が繰り返された。燃え尽き症候群に至らないよう人材育成、専門スキルの向上を図っていききたい。

2 計画相談

計画相談支援	529件	（成人	361件	児童	168件）	前年度512件
新規	46件	（成人	24件	児童	22件）	
モニタリング	317件	（成人	277件	児童	40件）	前年度264件

コロナ禍で障害支援区分調査が実施できず、区分更新が1年延長されたことにより結果的に更新件数は増えている。また、サービスの利用が定着しない人が、サービスの種類の変更などで計画の変更を余儀なくされることもあった。

モニタリング件数は、担当件数を相談員4人で分散したことにより、目標値300件を超えることができた。

新規の利用者は、圏域内に相談支援事業所が増えたことで昨年度より23件減少した。

3 一般相談

家庭での粗暴行為がエスカレートしたケース、保護者の入院や認知症の発症により家庭状況が変化したケース等は、緊急的に介入したが、サービスが定着し生活が安定するまで時間がかかった。

引きこもりのケースには、本人との関係作りから始まるため、丁寧な支援が必要だった。

介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。

障害者虐待の案件については、関係機関と連携し本人の安全確保を優先し、その後の安心した暮らしに向けての支援を行った。

4 障害児相談

ミュージック・ケアを保育所入所前の子育てサークル等で8件実施予定としていたが、コロナ禍で2回のみ実施した。

障害児支援サークル「星の子サークル」（立山町）の活動のうち、写生会とクリスマス会のみ支援を実施した。

5 地域生活支援拠点

① コーディネーター業務

相談対応、緊急的な対応が必要となる者の支援（4件）、地域生活支援拠点拡充に関する協議を実施した。

② 実態把握訪問 5件

③ 緊急受入 0件

6 その他

① 権利擁護

成年後見制度の利用に係る相談や申立に係る諸手続きのサポート、日常生活自立支援事業の利用のための情報提供やサポートを行った。ほか、障害年金、療育手帳等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

② 地域ネットワークの構築

「滑川・中新川地域障害者自立支援協議会」の各部会活動において、それぞれテーマに応じて地域課題の抽出、共有をした。そのなかで、地域で暮らしている障害者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めた。

コロナ禍で地域の障害者の交流活動やイベントは実施できなかった。

③ 医療的ケアが必要な子どもの就学に向けての準備として、関係機関との連携、環境調整を行った。

④ 富山県自立支援協議会相談部会「研修ワーキンググループ」への参加協力

相談支援体制の整備と人材育成のための相談支援従事者研修において、ワーキンググループの構成員として参加し、相談支援に携わる者のネットワークの構築に努めた。

令和3年度事業報告

新川会 共同生活支援室

(1) 利用状況

令和3年度に男性1名が体験利用を通し利用開始され、男性19名、女性9名が利用している。20代から80代までの幅広い年齢の方が在籍している。日中活動先は一般企業(2名)、就労継続支援A型(1名)・B型(20名)、生活介護(1名) 富山型デイサービス(4名)となっている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

利用者数

3月末日現在

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
男	18	18	18	18	19
女	8	9	9	9	9
計	26	27	27	27	28

(まえざわ男性5/7、かわはらだ男性7/7、つつみだに女性9/9、第2つつみだに男性7/7)

(2) 利用者支援について

令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策として、各種イベント等への参加を自粛してきた。そのような中でも帰省や各ホームでの新年会等を行い利用者を楽しんでもらえるようにした。

新型コロナウイルスについては、適宜情報を発信し「適切に恐れる」ということを何度も伝え続けた。

(3) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、お一人おひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。また、令和4年度から開始される身体拘束廃止検討委員会への準備をすすめた。

(4) 職員の資質向上

外部研修は、職種に合わせた研修(介護福祉士ステップアップ研修)に参加した。また、内部研修では、全体職員会議等で研修報告などを行った。

(5) 避難訓練について

6月は水害を想定しての避難訓練を実施、10月は火災を想定しての避難訓練を実施し、利用者・世話人と共に避難経路などの確認をした。

(6)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

検温（朝、夕）手指消毒、マスク着用、食堂にパーティションの設置等、基本的な感染対策をおこなった。

日中活動先で新型コロナウイルスの濃厚接触者が発生した場合は、結果がでるまで利用者の食事や入浴時間の変更等の対応を行った。

(7)地域との関係づくりについて

地域との行事はほとんどが中止となったが、五百石地区社会福祉協議会・立山町社会福祉協議会との交流会や、赤い羽根共同募金の街頭募金運動に参加した。

令和3年度事業報告

障害福祉サービス事業所 雷鳥苑

(3) 利用状況

生活介護事業においては、年度途中での新規利用が1名、就労継続支援B型から生活介護への移行者が1名、退所者が1名（四ツ葉園へ入所）となっており、17名が利用している。行動障害や精神疾患等で個別対応が必要な利用者が複数おり、対応に苦慮している状態である。

就労継続支援B型においては、在宅から日中活動の場としての新規利用が1名で18名が利用している。生活介護、就労継続支援B型ともに定員に若干の余裕がある状態が続いている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

1日あたりの平均利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生活介護	14.1人	14.3人	14.3人	14.0人	15.2人
就労継続支援 B型	16.7人	16.5人	15.9人	15.9人	16.8人

平均工賃

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
就労継続支援 B型	8,155円	9,119円	10,473円	9,894円	7,349円

(4) 利用者支援について

個別支援会議で支援方法を確認しながら、一人ひとりに向き合い支援してきた。新型コロナウイルス感染症により外部との行事はほとんどが中止になったが、苑内行事や季節行事は、自治会の意見を取り入れた企画・運営を行うことで利用者主体の楽しめる時間となるよう努めた。

(5)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

施設内の消毒や基本的な感染症対策（検温、手指消毒、マスク着用）と、利用者の健康観察を徹底して行った。家庭内で感染者や濃厚接触者が発生したとの連絡が3件あり、その都度在宅サービスを取り入れたり、苑内消毒を実施するなど感染拡大防止に努めた。

(6)実習生、ボランティアの受け入れについて

県内大学からの実習生4名のべ40日間受け入れ、障害者に対する理解を深め、触れ合う機会を提供した。ボランティアの受け入れについては、コロナウイルス感染症予防の観点から受け入れはできなかった。

(7)地域との関係づくりについて

地域との行事はほとんどが中止となったが、立山町社会福祉連絡協議会を通して情報収集を行った。立山町社会参加促進事業の一環として絵画作品の展示や、フードドライブへの参加、交通安全マスコット配布を行った。

(8)人権の擁護について

個別支援計画や虐待防止委員会にて、一人ひとりへの支援の振り返りを行い、人権擁護に努めた。また、令和4年度から開始となる身体拘束適正化委員会への準備をすすめた。

(9)施設整備

6月には、送迎車で使用している軽四を、降雪時にも対応できる四輪駆動に更新した。また、9月には苑内のGHPエアコン設備工事の更新も行い、快適に過ごすことができている。

令和3年度事業報告

障害者サービス事業所 さつき苑

(7) 利用状況

生活介護では、令和3年度に3名の新規利用、1名が退所した。またコロナ感染症を危惧して欠席が続いている利用者もいたが、平均利用者数は16.3人と増加している。

就労継続支援B型では、最近5年の新規利用者が2名、退所者が1名である。令和3年度は、コロナ感染症を危惧して欠席があり、利用者数は昨年度より減少した。

平均工賃については、令和2年度はコロナ禍で作業量が減少したこともあり、前年度を下回ったが、令和3年度は、藤堂工業からのリテーナ作業の受注量が増え、最低賃金の改定に伴い作業単価が大幅に上がったことで、8月と12月に支給しているほかに2月3月にも特別賞与を追加支給した。

< 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 >

1日当たりの平均利用者数 (人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生活	16.3	14.7	14.8	13.2	16.3
就労	13.6	13.7	13.4	13.2	12.9

平均工賃額 (円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
就労	8,155	8,356	10,720	10,357	19,602

(8) 利用者支援について

令和3年度の行事については、感染症対策を実施し、さつき苑祭やもちつきなどレクリエーションを中心とした行事を利用者、職員のみで行った。成人を祝う会では、保護者にも来ていただきお祝いをすることができた。

令和3年度の主な行事は次のとおりである。

月	行事	備考
4	お花見	実施
6	お楽しみ会食	実施
8	七夕の会	実施

	夏のお楽しみ会	苑内実施
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	秋のお楽しみ会	苑内実施
12	もちつき	実施
	期末の集い	実施
1	新年を祝う会 成人式	実施
2	節分の会	実施
3	ひなまつりの会	実施

(3)生活介護

町民グラウンドでの運動を取り入れた活動が多くできるよう職員配置を見直した。体を動かすことで健康に生活リズムを整えられるよう取り組んだ。また、さつまいもの植え付けや収穫、富山薬草生産組合からの受託をうけた入浴雑貨づくりや、中部厚生センターの敷地内の除草も実施した。木工作业では、3月に北日本新聞に利用者の作成した菊型コースターが掲載されたことで、年度末注文が多くなった。

(4)就労継続支援B型

受託作業では、作業効率が上がるよう手順の見直しを行い、加工品づくりへの職員配置ができるようになった。また畑では、さつまいも700本を栽培し、550kgの収穫があった。収穫したさつまいもは、店頭販売のほか、干し芋の加工品づくりに取り組んだ。

(5)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

朝の検温、手指消毒、マスク着用、苑内及び送迎車の消毒など、基本的な感染対策を徹底した。また、丁寧な保護者との連絡を心掛け、ワクチンの接種状況の把握や感染状況の情報を伝えた。

(6)実習生の受け入れについて

県内大学より実習生4名のべ40日間受け入れを行った。

令和 3 年度事業報告

障害サービス事業所 つつじ苑

(9) 利用状況

利用者定員について生活介護 18 名（現在 17 名）就労継続支援 B 型定員 20 名（現在 19 名）である。過去 5 年間の一日平均利用者数について 3 名～5 名程度、減少してきている。

令和 3 年度の新規利用者は 0 名だった。年度途中には支援学校の事業所説明会に出向き利用者確保に向けて事業所紹介を行ってきた。

< 参考 最近 5 年間の利用状況 >

一日平均利用者数

生活介護

3 月末日現在

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
人数	14.7	9.4	9.7	11.0	10.3

就労継続支援 B 型

3 月末日現在

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
人数	18.8	19.7	18.7	16.3	15.3

平均工賃

3 月末日現在

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
金額	4,579	4,769	4,606	5,202	5,755

(10) 利用者支援について

令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策として各種イベントや外部との活動を自粛してきたが、令和 3 年度は、感染症対策を講じながら少しずつ年内行事を開始した。4 月から 11 月までの行事は、コロナ禍の影響もあり縮小や中止をせざる負えない状況であったが、12 月以降の行事は、感染状況をみて対策を施行しながら実施できた。

8 月の夕涼み会では、コロナ禍ということでの四ツ葉園と連携してウクレレ演奏を行い ZOOM で四ツ葉園に配信し相互で楽しめた。

令和 3 年度の主な行事は、次の通りである。

月	行 事	備 考
4	お花見	実施
5	遠足	お食事会実施
6	花しょうぶ祭り	縮小実施

7	市社協ボランティア体験	中止
8	夕涼み会	縮小実施
	エール即売会	中止
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	滑川市社会福祉大会出店	中止
11	つつじ苑祭	縮小実施
	TOMI SHOP 出店	中止
12	障害者週間出店	実施
	もちつき	実施
	期末の集い	実施
1	新年を祝う会、成人式	実施
2	節分の会	実施
3	ひな祭り会	実施

(3) 生活介護

日中活動として行田公園や滑川市スポーツ健康の森までの散歩、荒天の場合は、社会福祉センター2階の大会議室を利用してウォーキング、トランポビクス、ボールエクササイズを行った。生産活動として(株)サンフーズの広告封入作業を行った。8月と12月に賞与を支給した。

(4) 就労継続支援B型

令和3年度はコロナ禍の中で次第に収入は微増だが戻りつつあり、令和3年度収入1,522,908円(前年比106,388円増)だった。平均工賃では、令和3年度5,755円(令和2年度5,202円)だった。

作業種目については、滑川市からの地下道清掃も請負(2箇所)、(有)重松、第一繊維工業有限会社のタオル伸ばし作業、(有)やまもとの自動車部品箱詰め作業、短期間の請負作業では、市営住宅敷地内の除草作業、滑川市花卉球根組合の球根、石拾い作業等を行った。

(5) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、お一人おひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。また、令和4年度から開始される身体拘束廃止検討委員会への準備をすすめた。

(6) 職員の資質向上

外部研修は、観察の視点を活かした介護記録研修や音楽療法等利用者支援の幅が広がるもの、権利擁護研修(虐待防止)や強度行動障害支援者養成研修(基礎、実践)に参加した。また、内部研修では、全体職員会議や課内会議で、研修報告などを行った。

(7) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

感染対策として検温(朝、昼、帰宅前)手指消毒、マスク着用などの基本的な感染対策をおこなった。

(8) 実習生の受入れについて

実習は指定校からの実習生を5名のべ50日間受け入れた。

(9) 生活環境の整備

10月に訓練室1、訓練室2、中央作業のGHPエアコン及び室外機の更新を行った。快適に作業が行えるようになった。

(10) 地域との関係づくりについて

農作業従事者の高齢化にともない滑川市農林課を通じて花卉球根組合からの依頼によりチューリップ球根採取および畑の石拾いを行った。令和4年度も引き続き実施予定である。また滑川市空き家等居住対策課から市営住宅敷地内の除草の依頼もあり実施した。

利用者は、農作業や除草を通じて地域に貢献していることを自負し自信につながっている。

令和3年度事業報告

障害者サービス事業所 工房よつば

(1) 利用状況

平成30年度までは、対象利用者は新川会グループホームの利用者のみであったが、平成30年度から高齢施設や一般就労に移行したことにより利用者数が減少した。そのため、令和元年度より在宅者を受け入れることにしたが認知度が低く現在の所利用者増につながっていない。

収入面では主力のテクニカ株式会社からの受注量が数年来減少してきているため、新たな事業として原木椎茸をはじめとする野菜生産に努めているところである。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

1日あたり平均利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人数	14人	12.1人	13.3人	11.9人	11.2人

平均工賃

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
金額	7,513円	7,237円	5,710円	5,720円	6,330円

(2) 利用者支援について

それまで主要行事は四ツ葉園と共に実施していたが、令和2年度からは工房よつば独自の行事として、新たに夏と秋の「お楽しみ会」を実施。利用者の個々の主体性が発揮できるように参加型の内容を企画した。外出の機会も減り、テイクアウト昼食やおやつ作りなど事業所内で新たに行うものを取り入れながら、外出も県の感染対策指標を基に実施した。

令和3年度の主な行事は次のとおりである。

月	行 事	備 考
4	お花見	実施
5	レクリエーション	中止
6	遠足	縮小実施
8	夏のお楽しみ会	実施
9	ふれあい育成スポーツ大会	中止
10	秋のお楽しみ会	実施

11	社会生活体験	実施
12	期末の集い	実施
1	新年を祝う会	実施
2	節分の会	実施
3	ひなまつりの会	実施

(3) 生産活動

従来からの受託先の受注量が徐々に減少してきている。その為自主製品の農作物販売等で収入を維持するように取り組んだ。

作業種目

- ・テクニカ株式会社によるバリ取り作業
- ・林商会のアメニティセット製作とタオルたたみ
- ・よもぎ入浴雑貨と原木椎茸の生産、出荷
- ・年間を通して22種類の野菜の生産、販売

(4) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

四ツ葉園クラスター発生時は活動場所を変更し利用者の皆様やご家族の不安が無いよう日中活動の場を提供継続し、感染症対策を行いながら支援を継続した。検温やマスク、消毒を実施するとともに、ご家族に対しては感染対策のご理解とご協力を繰り返しお伝えし感染症拡大防止に努めた。

(5) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、お一人おひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。また、令和4年度から開始される身体拘束廃止検討委員会への準備を進めた。